

**宮 城 県 の 経 済 動 向**  
**平成 3 0 年 第 2 四 半 期**  
**( 4 月 ~ 6 月 期 )**

# I 本県の経済概況

## 平成 30 年第 2 四半期（4 月～6 月期）の宮城県経済の動向

生産はこのところ低下傾向であるが高水準を維持し、求人倍率も高水準で推移しているなど、基調としては緩やかに回復しているものの、個人消費が弱含みで推移し、住宅投資や公共投資などに弱い動きがみられる。

- ・生産：東日本大震災の影響があるなかで、このところ低下傾向であるものの、高水準を維持している。
- ・住宅投資：高水準で推移しているものの、減少傾向の動きとなっている。
- ・公共投資：高水準で推移しているものの、減少の動きとなっている。
- ・個人消費：弱含みで推移している。
- ・雇用：改善傾向の動きとなっている。
- ・企業倒産：増加の兆しがみられる。

### 生産

鉱工業生産指数は、前期比が2期連続の低下となった。前年同期比は10期ぶりの低下となった。

### 住宅投資

新設住宅着工戸数は、前年同期比が全体では3期連続の減少となった。持家は9期連続の減少となった。貸家は3期連続の減少となった。分譲住宅は5期ぶりの減少となった。

### 公共投資

公共工事請負金額の前年同期比は、全体では10期ぶりの増加となった。発注主体別にみると、国は2期連続の増加となった。県は5期ぶりの増加となった。市町村は9期連続の減少となった。

### 個人消費

（百貨店・スーパー、自動車、物価）

#### 百貨店・スーパー

百貨店・スーパー販売額の全店舗比較は、前年同期比が9期連続の減少となった。既存店比較は、9期連続の減少となった。

### 自動車

軽自動車新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は、前年同期比が3期連続の減少となった。車種別の前年同期比は、小型車は3期連続の減少となった。軽自動車は2期連続の増加となった。普通車は4期ぶりの増加となった。

### 物価

仙台市消費者物価指数（平成27年＝100）は、生鮮食品を除く総合指数は前期比が2期ぶりの上昇となり、前年同期比は6期連続の上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は前期比が2期ぶりの上昇となり、前年同期比は10期連続の上昇となった。総合指数は前期比が3期ぶりの下落となり、前年同期比は7期連続の上昇となった。

### 雇用

有効求人倍率（原数値）は、前年同期差が14期連続の上昇となった。新規求人倍率（同）は、前年同期差が14期連続の上昇となった。所定外労働時間（製造業・事業所規模30人以上）は、前年同期比（指数・平成27年＝100）が2期連続の低下となった。実質賃金指数（製造業・事業所規模30人以上・平成27年＝100）は、前年同期比が2期連続の低下となった。雇用保険受給者実人員は、前年同期比が19期連続の減少となった。

### 企業倒産

企業倒産は、件数は前年同期比が2期連続の増加となった。負債総額は前年同期比が2期ぶりの増加となった。大型倒産（負債総額10億円以上）は発生しなかった。

※下線部は前期からの主な変更箇所。

## II 主な指標の動き

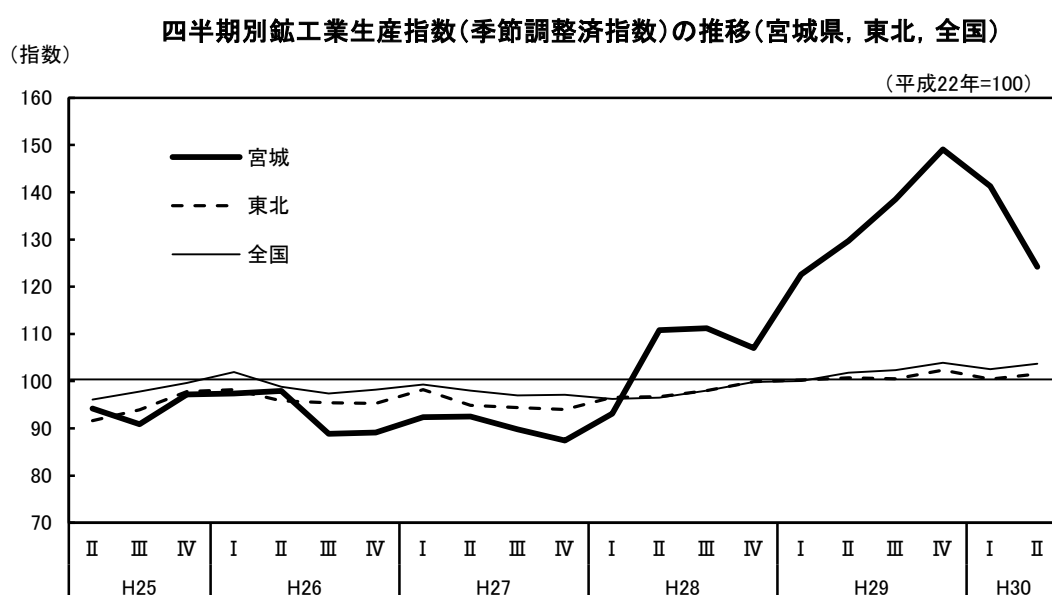
### 1 生産

#### ○ 鉱工業生産指数

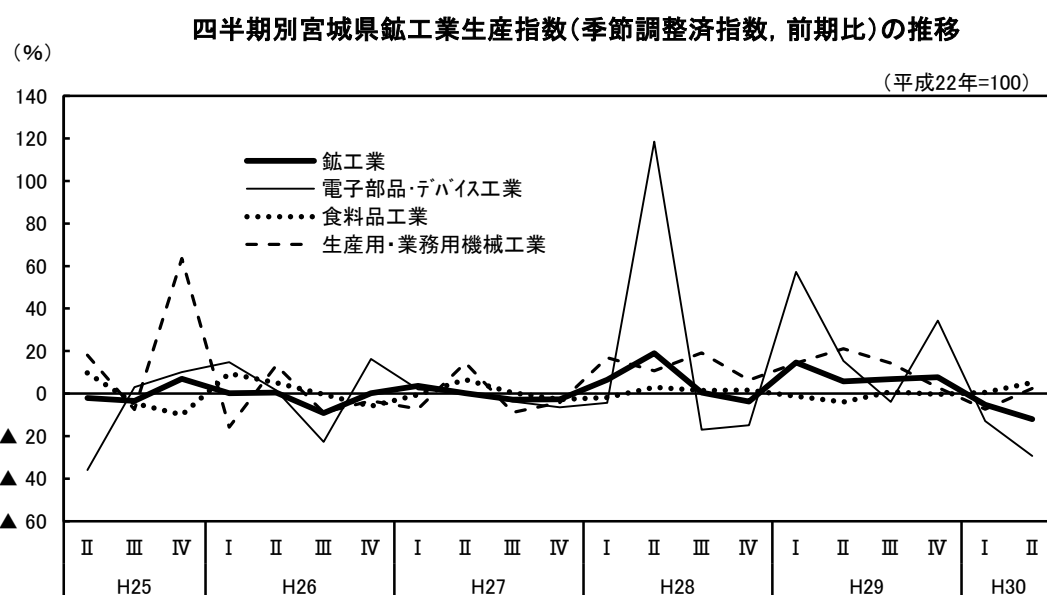
平成30年第2四半期(4月～6月期)の鉱工業生産指数(季節調整済)は124.2(平成22年=100)で、前期比が12.1%の低下となり、2期連続の低下となった。

ウェイトの大きい業種を中心に見ると、電子部品・デバイス工業は前期比が29.4%の低下となり、2期連続の低下となった。生産用・業務用機械工業は前期比が2.4%の上昇となり、2期ぶりの上昇となった。食料品工業は前期比が5.2%の上昇となり、2期連続の上昇となった。

前年同期比(原指数での比較)では4.3%の低下となり、10期ぶりの低下となった。



(資料:宮城県統計課)



(資料:宮城県統計課)

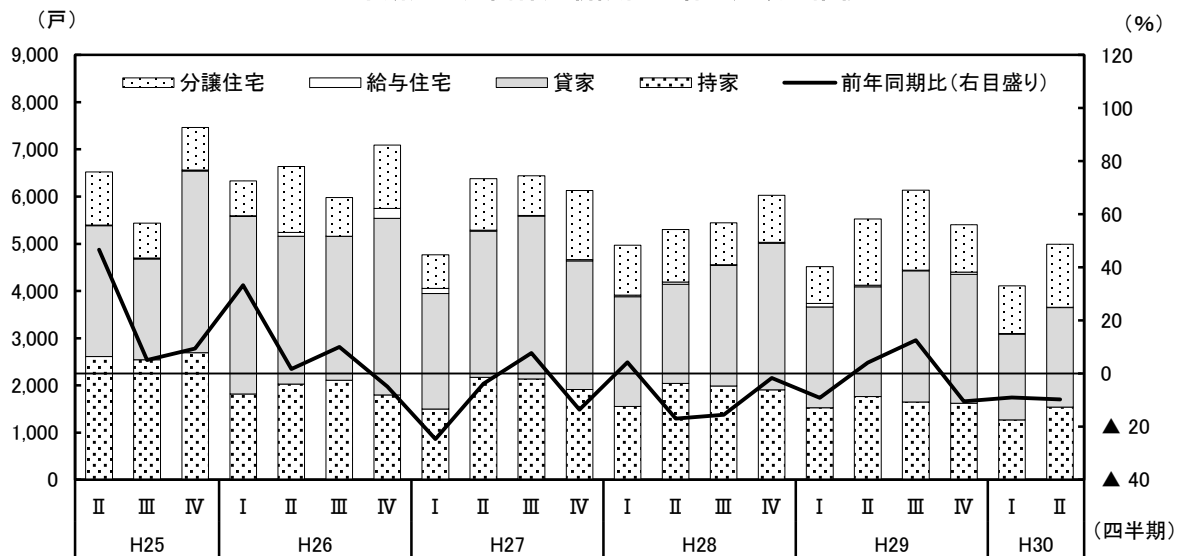
## 2 住宅投資

### ○ 新設住宅着工戸数

平成30年第2四半期(4月～6月期)の新設住宅着工戸数は4,990戸で前年同期比が9.7%の減少となり、3期連続の減少となった。

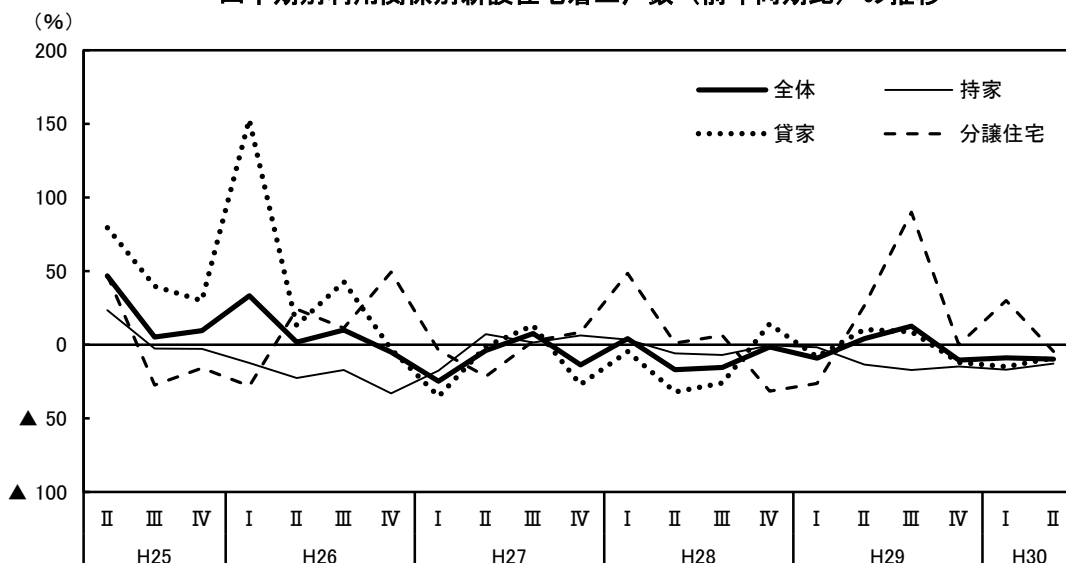
利用関係別にみると、持家(建築主が自分で居住する目的で建築するもの)は前年同期比が12.7%の減少となり、9期連続の減少となった。貸家(建築主が賃貸する目的で建築するもの)は前年同期比が9.1%の減少となり、3期連続の減少となった。分譲住宅(建売または分譲の目的で建築するもの)は前年同期比が4.6%の減少となり、5期ぶりの減少となった。

四半期別利用関係別新設住宅着工戸数の推移



(資料:国土交通省)

四半期別利用関係別新設住宅着工戸数(前年同期比)の推移



(資料:国土交通省)

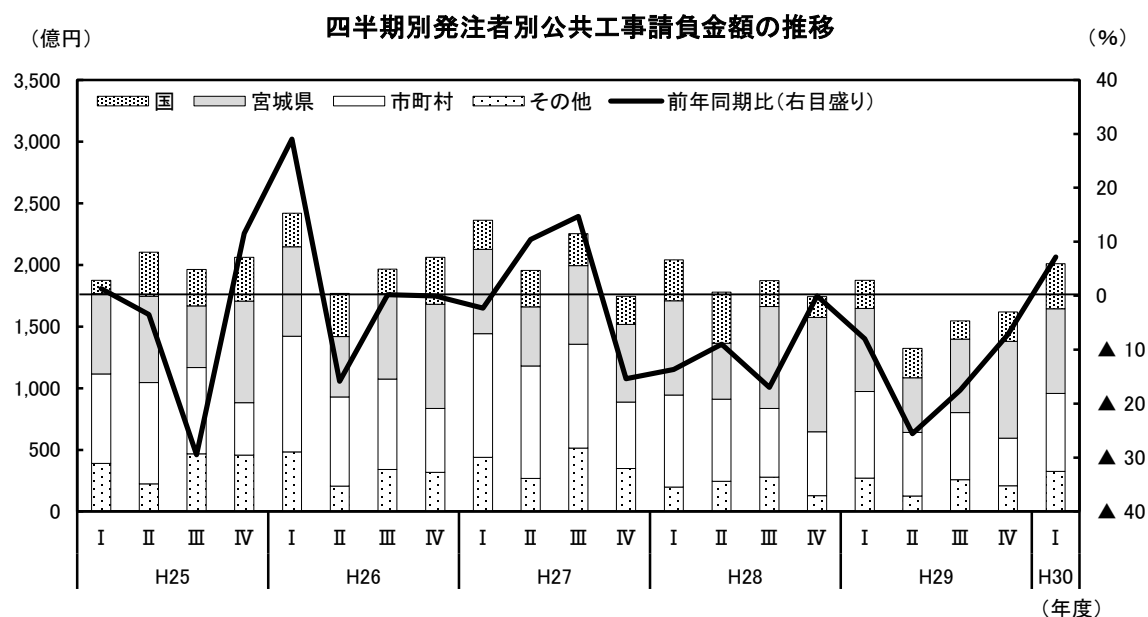
### 3 公共投資

#### ○ 公共工事請負金額

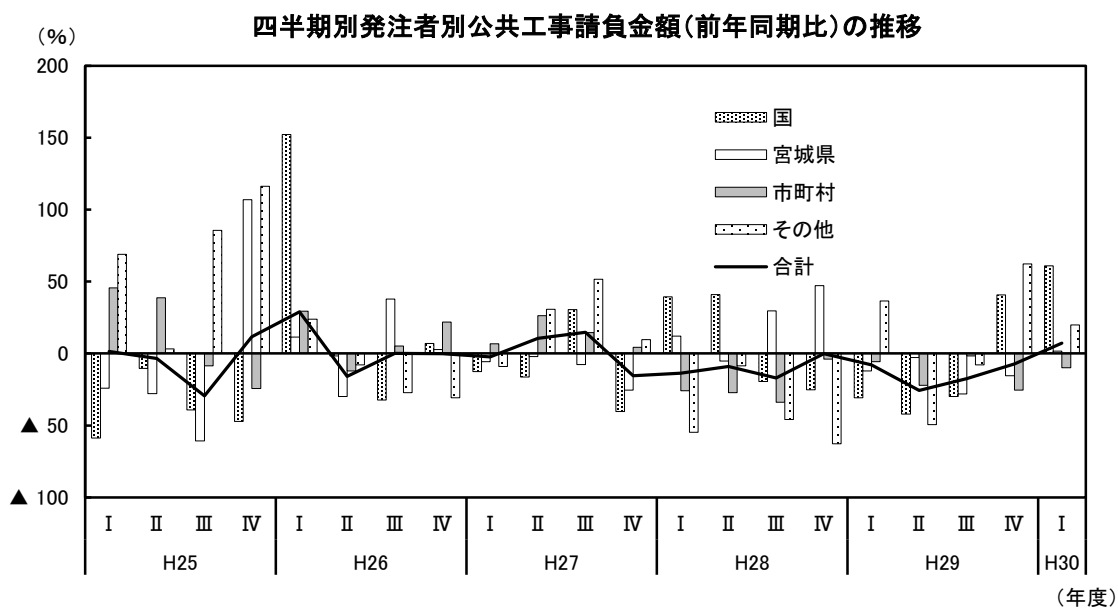
平成30年度第1四半期（4月～6月期）の公共工事請負金額は2,010億円で、前年同期比が7.2%の増加となり、10期ぶりの増加となった。

発注者別にみると、国は前年同期比が61.0%の増加となり2期連続の増加となった。県は前年同期比が1.6%の増加となり5期ぶりの増加となった。市町村は前年同期比が9.9%の減少となり9期連続の減少となった。

※ 公共工事請負金額は、年度をベースにしているため、動向や資料は年度を基準としています。



(資料: 東日本建設業保証(株))



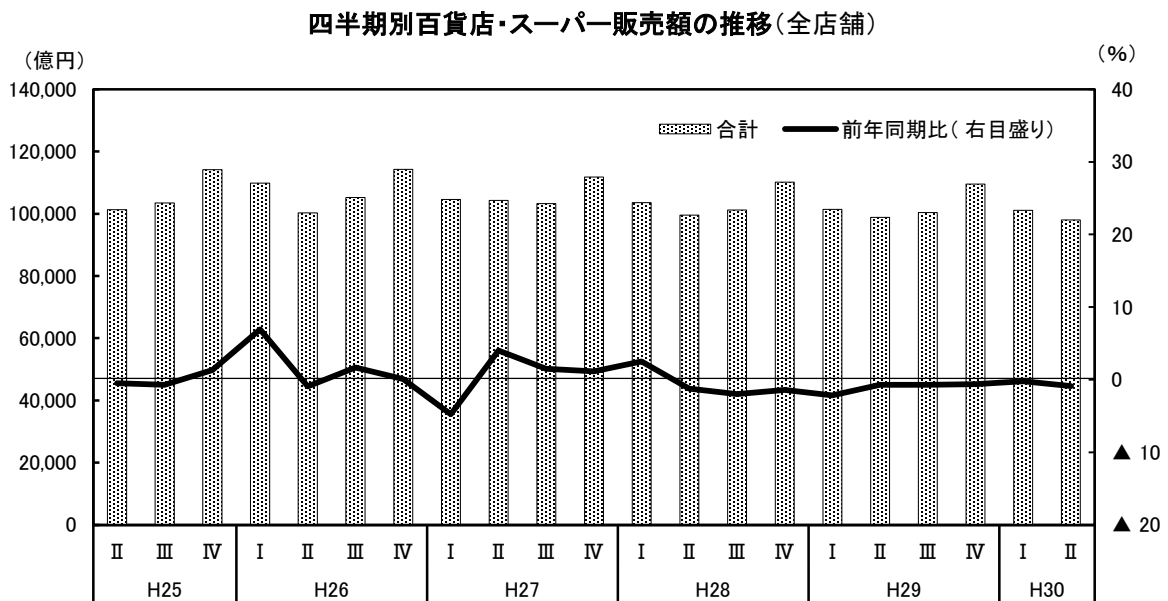
(資料: 東日本建設業保証(株))

## 4 個人消費

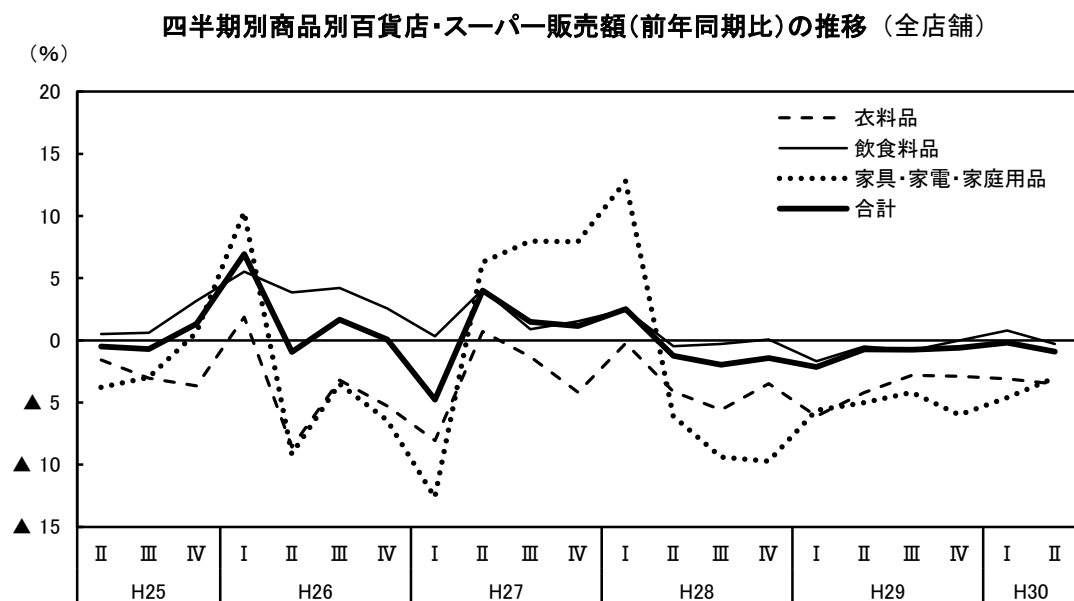
### (1) 百貨店・スーパー販売額

平成30年第2四半期(4月～6月期)の百貨店・スーパー販売額は979億6800万円で、全店舗比較の前年同期比は0.9%の減少となり、9期連続の減少となった。既存店比較の前年同期比は2.1%の減少となり、9期連続の減少となった。

商品別にみると、衣料品は前年同期比(全店舗比較)が3.5%の減少となり、12期連続の減少となった。家具・家電・家庭用品は前年同期比(同)が3.0%の減少となり、9期連続の減少となった。飲食料品は前年同期比(同)が0.3%の減少となり、3期ぶりの減少となった。



(資料:東北経済産業局)



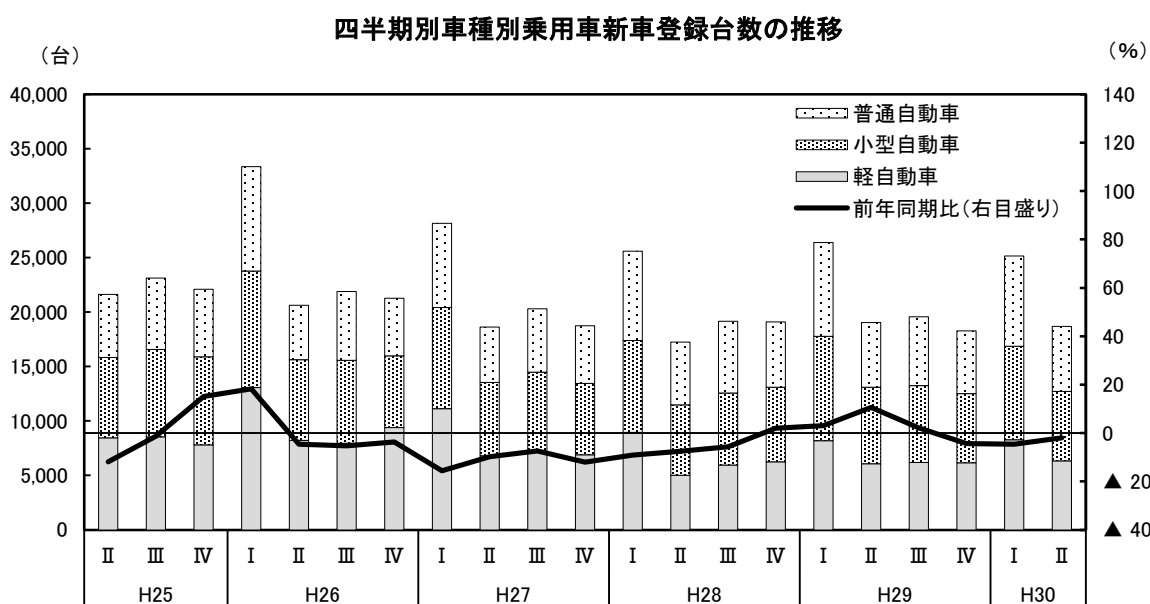
(資料:東北経済産業局)

※ 平成27年第3四半期分から平成28年第2四半期分までは、前年同期値をリンク係数で補正(14頁参照)

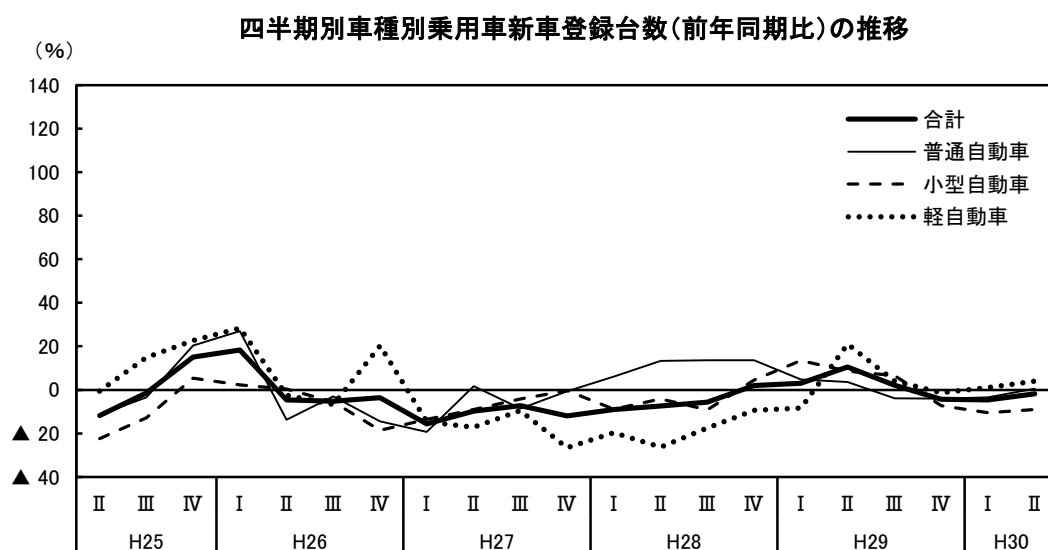
## (2) 乗用車新車登録及び届出台数

平成30年第2四半期(4月～6月期)の軽自動車新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は1万8,696台で、前年同期比が1.9%の減少となり、3期連続の減少となった。

車種別にみると、小型車は前年同期比が9.0%の減少となり、3期連続の減少となった。軽自動車は前年同期比が4.0%の増加となり、2期連続の増加となった。普通車は前年同期比が0.5%の増加となり、4期ぶりの増加となった。



(資料:東北運輸局「東北運輸局管内の新車登録・届出台数」, 全国軽自動車協会連合会)



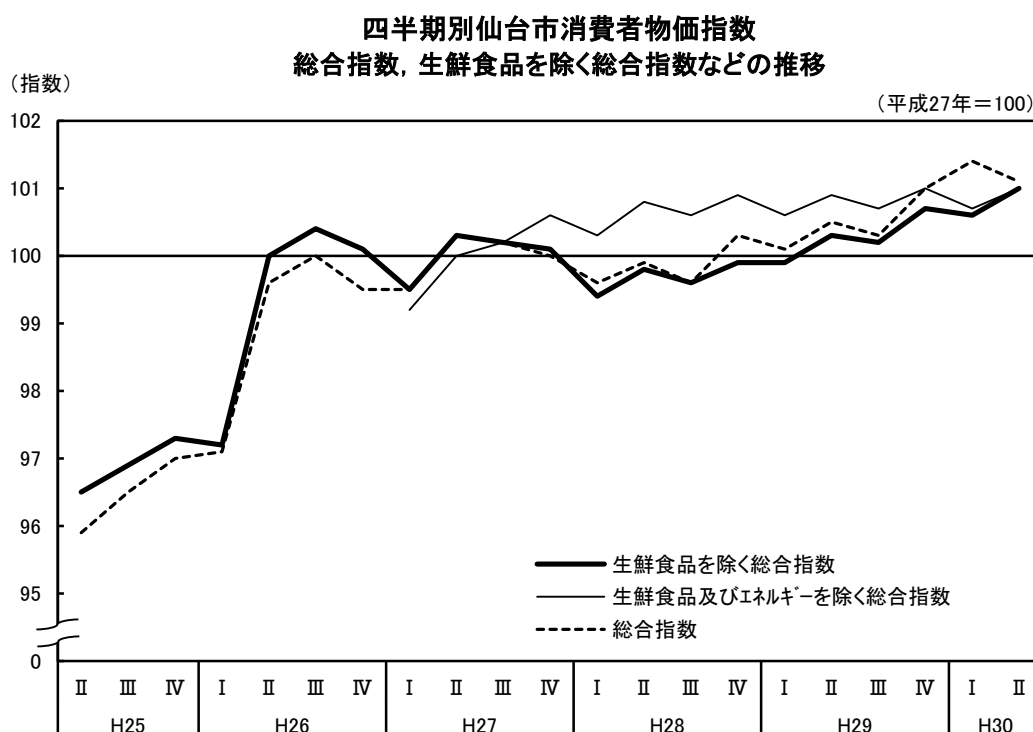
(資料:東北運輸局「東北運輸局管内の新車登録・届出台数」, 全国軽自動車協会連合会)

### (3) 物 価

#### ○ 仙台市消費者物価指数

平成30年第2四半期(4月～6月期)の仙台市消費者物価指数(平成27年=100)は、生鮮食品を除く総合指数は101.0で、前期比が0.4%の上昇となり、2期ぶりの上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は101.0で、前期比が0.3%の上昇となり、2期ぶりの上昇となった。総合指数は101.1で、前期比が0.3%の下落となり、3期ぶりの下落となった。

前年同期比では、生鮮食品を除く総合指数は0.7%の上昇となり、6期連続の上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は0.1%の上昇となり、10期連続の上昇となった。総合指数は0.6%の上昇となり、7期連続の上昇となった。



※ 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は平成27年1月分より公表(14頁参照)。

(資料:宮城県統計課)



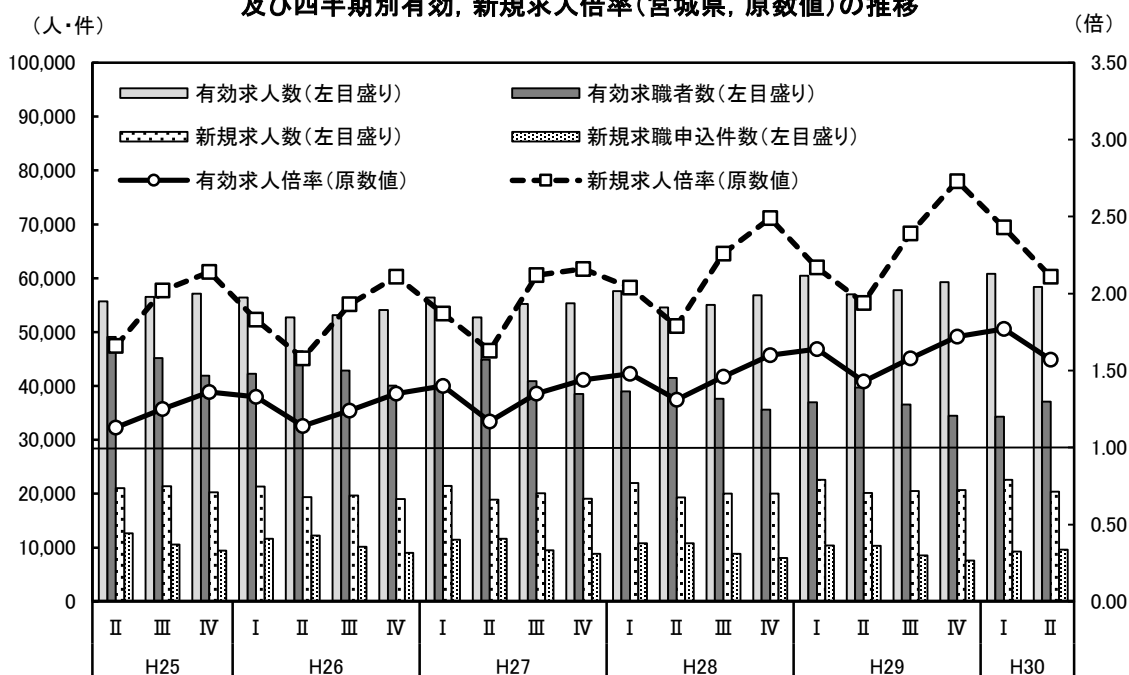
## 5 雇 用

### (1) 求人倍率

平成30年第2四半期(4月～6月期)の有効求人人数(月平均値)は5万8,384人で、前年同期比が2.4%の増加となり、7期連続の増加となった。有効求職者数(同)は3万7,090人で、前年同期比が6.6%の減少となり、25期連続の減少となった。有効求人倍率(原数値)は1.57倍で前年同期差は、0.14ポイント上昇し、14期連続の上昇となった。

新規求人数(月平均値)は2万392人で、前年同期比が1.3%の増加となり、2期ぶりの増加となった。新規求職申込件数(同)は9,646件で、前年同期比が6.9%の減少となり、19期連続の減少となった。新規求人倍率(原数値)は2.11倍で前年同期差は、0.17ポイント上昇し、14期連続の上昇となった。

有効, 新規求人数, 新規求職申込件数(宮城県, 四半期平均)  
及び四半期別有効, 新規求人倍率(宮城県, 原数値)の推移



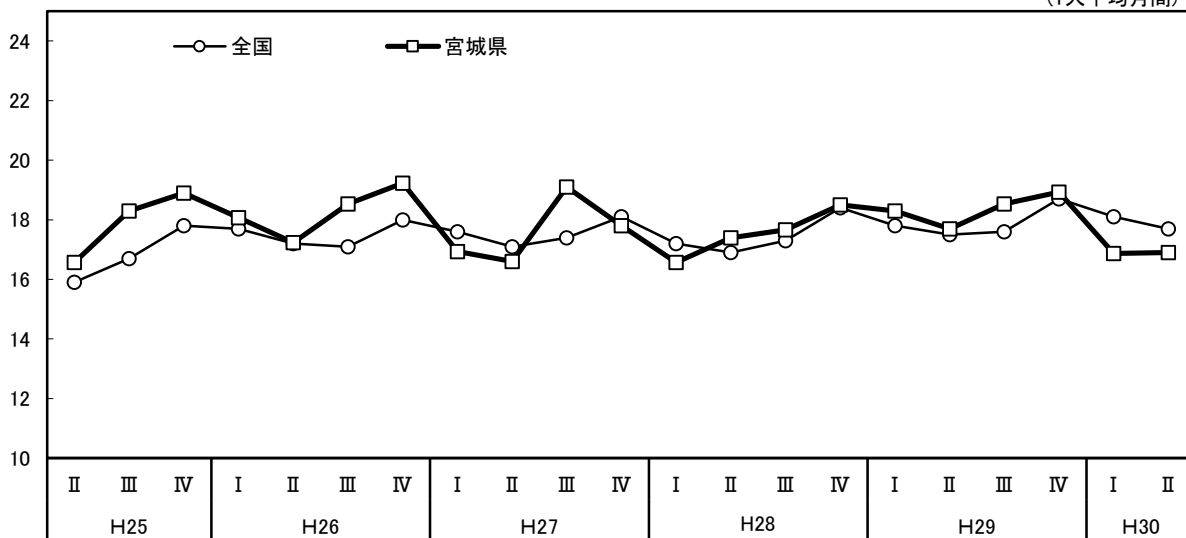
(資料:宮城労働局)

## (2) 所定外労働時間

平成30年第2四半期（4月～6月期）の所定外労働時間（製造業，事業所規模30人以上，1人平均月間）は16.9時間で，前年同期比（指数，平成27年=100）が4.8%の低下となり，2期連続の低下となった。

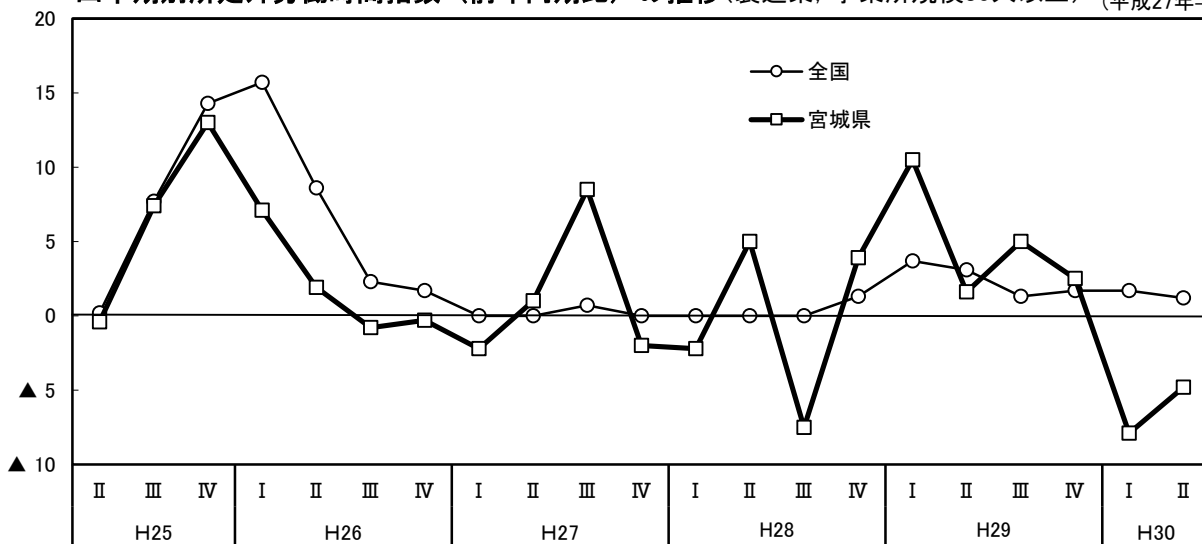
(時間) 四半期別所定外労働時間の推移(製造業，事業所規模30人以上)

(1人平均月間)



(資料:宮城県統計課)

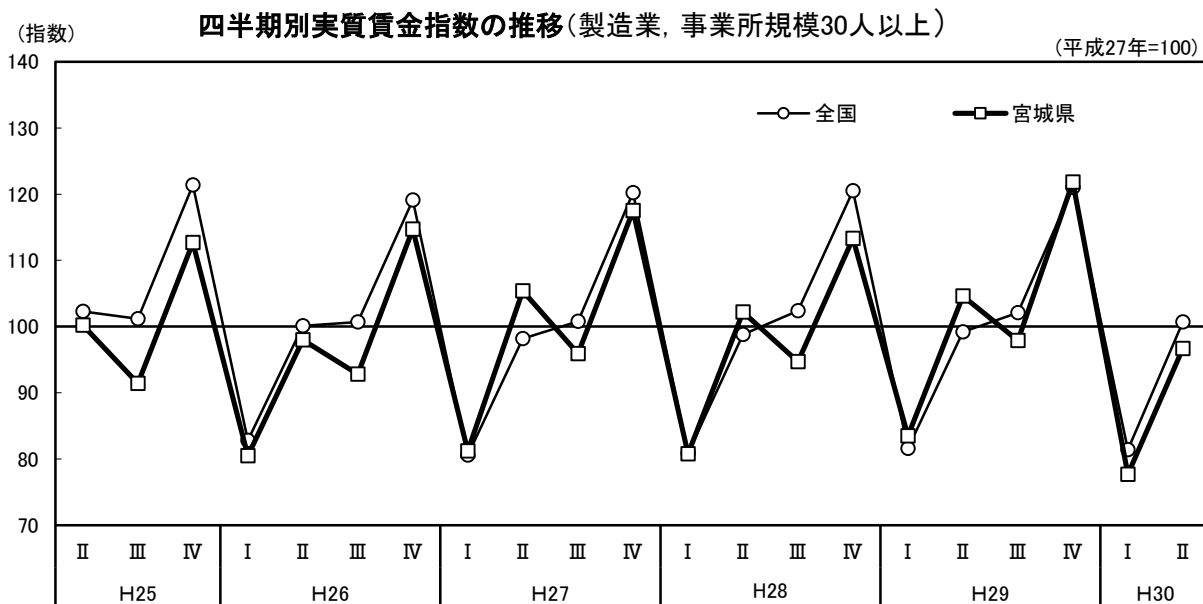
(%) 四半期別所定外労働時間指数(前年同期比)の推移(製造業，事業所規模30人以上) (平成27年=100)



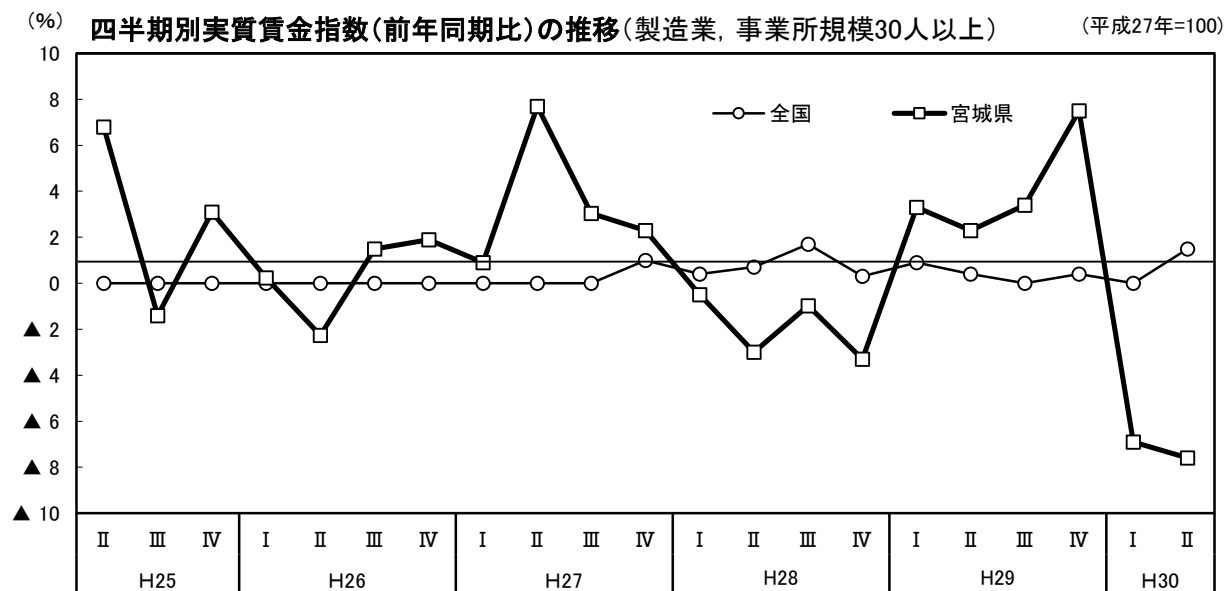
(資料:宮城県統計課)

### (3) 実質賃金指数

平成30年第2四半期（4月～6月期）の実質賃金指数（製造業，平成27年=100，事業所規模30人以上）は96.7で，前年同期比が7.6%の低下となり，2期連続の低下となった。



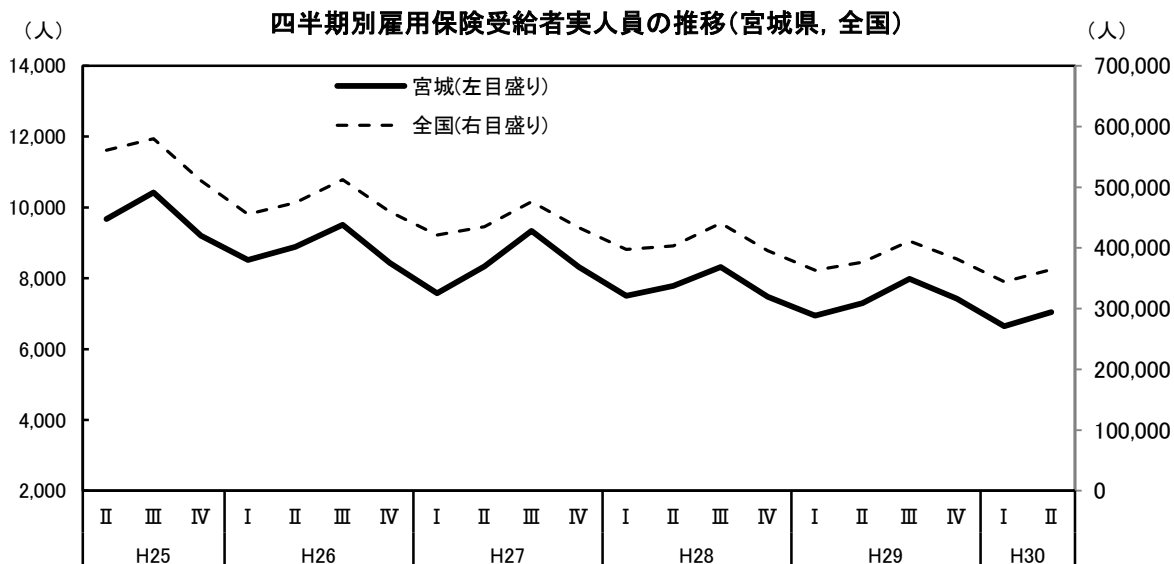
（資料：宮城県統計課）



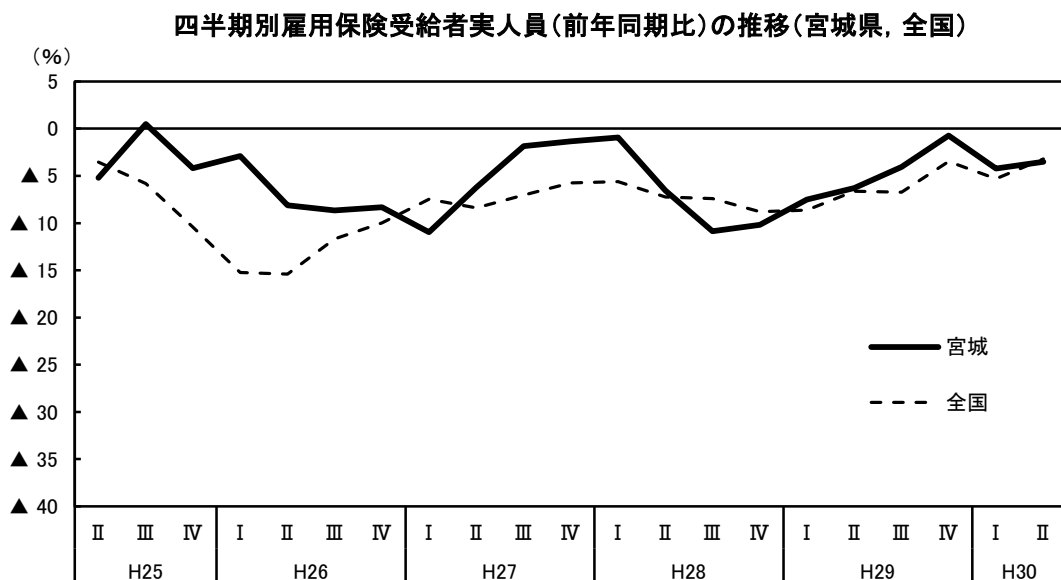
（資料：宮城県統計課）

#### (4) 雇用保険受給者実人員

平成30年第2四半期（4月～6月期）の宮城県の雇用保険受給者実人員は7,042人で前年同期比が3.5%の減少となり、19期連続の減少となった。



(資料:宮城労働局)



(資料:宮城労働局)

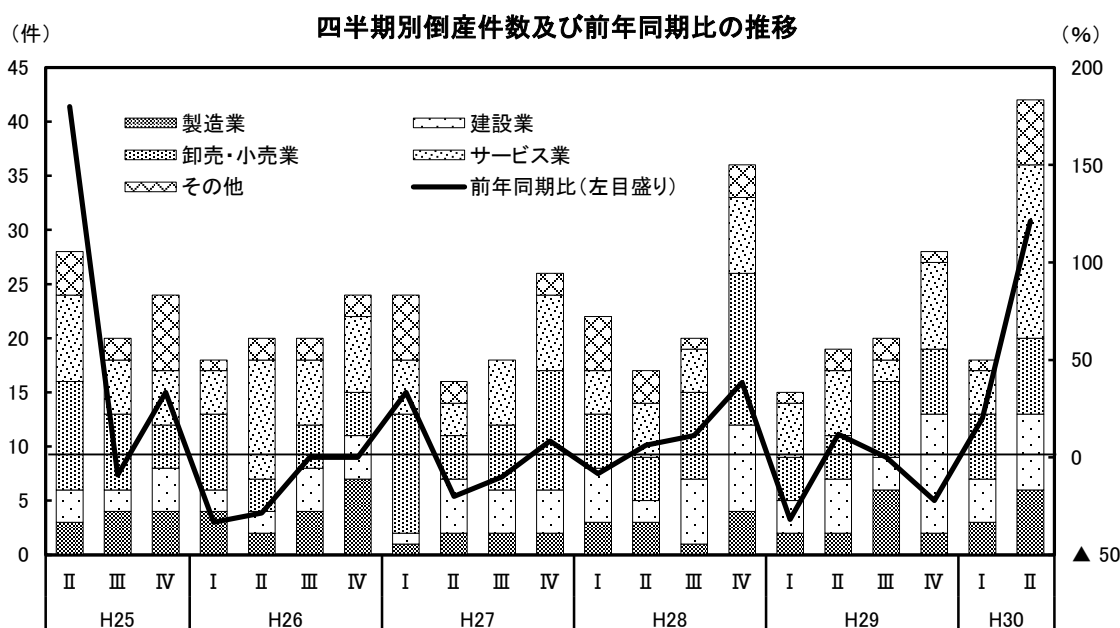
## 6 企業倒産

平成30年第2四半期(4月～6月期)の宮城県内の企業倒産(負債総額1千万以上)の件数は42件で、前年同期比が121.1%の増加となり、2期連続の増加となった。

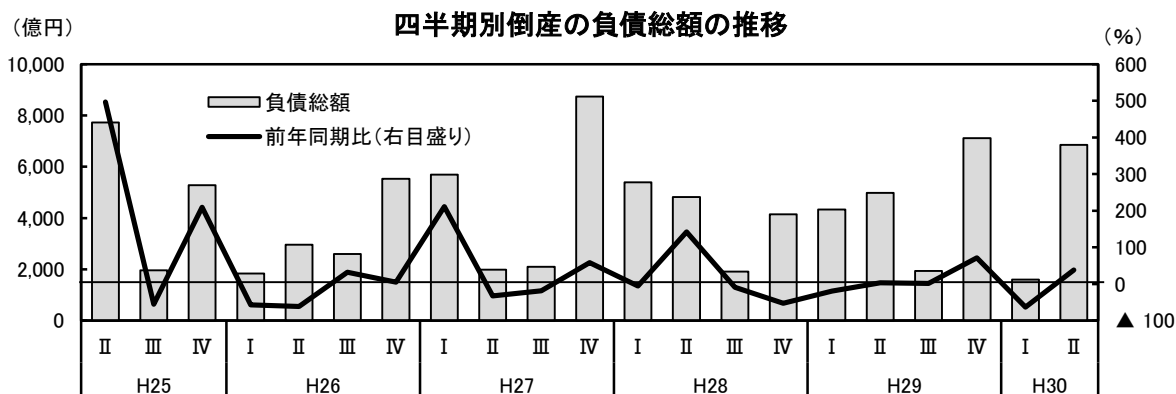
負債総額は68億5,500万円で、前年同期比が37.7%の増加となり、2期ぶりの増加となった。

これらのうちの不況型倒産(販売不振, 売掛金回収困難, 赤字累積, 既往のシワ寄せ)の件数は31件で、前年同期比が210.0%の増加となり、2期連続の増加となった。件数の構成比は73.8%で、前年同期より21.2ポイントの上昇となった。

大型倒産(負債総額10億円以上)は発生しなかった。



(資料):(株)東京商工リサーチ)



(資料):(株)東京商工リサーチ)